様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：１８００１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０７２０

研究課題名（和文）グローバル化時代における遠隔交流を活用した英語教育と英語教員養成プログラムの研究

研究課題名（英文）A Research on Utilizing Videoconferencing for College English Education and English Teacher Training Programs within the Global Era

研究代表者
與儀　峰奈子（YOGI, Minako）

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：８０２８４９３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　グローバルな時代を迎え、「英語運用能力」、「異文化理解」、「自文化理解・発信」、「グローバルな視野」等の資質が更に要求されるようになり、このような特質を備えた人材育成を実施するための一方策として、英語教員養成系・大学英語関連クラスにおいて遠隔通信交流を取り入れた参画型実践授業を展開した。学生は教科書のテーマに関して協働研究し英語で発表を行った。この一連の活動の英語教育および英語教員養成プログラムへの導入や英語教員の再教育のための方法論等を明確化させながら教育現場や教育機関へのフィードバックを行った。研究成果の詳細については７つの国際学会で口頭発表を行い、２篇の論文として国際学会誌に掲載した。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study was to integrate videoconferencing in college English courses and English teacher training programs to make recommendations on English curriculum, English teacher education, and in-service teacher training.
In the present globalized society, university graduates are recommended to have the following qualities: English language competence, presentation skills, cross-cultural understanding, and global perspectives. In order to develop the qualities of university students, this research implemented videoconferencing into English and education related classes to explore its effectiveness and potentials. Students gathered information on topics covered in their textbooks and collaboratively created scripts and slides to prepare for the live presentation sessions. The findings of this study were shared among school districts and educational institutions. They were also presented at seven international conferences, and published in two international journals.

研究分野：英語教育、応用言語学、教員養成

キーワード：英語教育　外国語教員養成　遠隔交流　グローバリゼーション　ICT　協働学習

１．研究開始当初の背景

本研究の基盤活動の開始当初(2005 年)、高価な会議システムを使用した遠隔交流は限られた環境においてのみ可能で、比較的特殊な活動であったが、今やだれもがスマートフォンやタブレット端末を用いて気軽にグローバルな規模でのデジタル・コミュニケーションが可能な時代になった。その意味で海外との遠隔交流は一般化され、以前より普及したデジタル・コミュニケーションは英語の修得と同様にグローバル化時代を生き抜くための必須スキルとなっている。

それゆえ従来の英語教育の中にデジタル・コミュニケーション・スキルを融合させ、それを英語教育そのもの、およびそれを担う英語教員養成に体系的に組み込んだ。有益で効率的なプログラムの必要性から、過去の ICT 遠隔交流の実績を英語教職系クラスおよび大学英語系クラスに導入し、教室にいながら海外の教員・生徒と触れ合い模擬授業やプレゼンテーションをグローバルに展開することの意義を見出したのがこの研究の原点である。

２．研究の目的

本研究は、スカイプ等のデジタル・コミュニケーション技術を活用した海外との遠隔交流を、英語教育および英語教員養成に具体的プログラムとして取り入れる方法論を確立することを目的とする。デジタル・コミュニケーション・スキルは英語と並んで、グローバル化時代に求められる必須能力であり、両者が協働する経験およびその技術の修得・運用は英語教育において必要不可欠な領域となる。研究の焦点は「英語教育カリキュラム」、「英語教員養成」、「現職教員の再教育」の三点にあり、これまでの研究によって積み上げられてきた遠隔交流の環境作り、および効果測定の実績に基づき、遠隔交流をそれぞれのプログラムにおいて、いかに体系的に位置付け、実施できるかの検証を行った。

３．研究の方法

本研究は「英語教育カリキュラム」、「英語教員養成」、「現職教員の再教育」の 3 つの観点に分けて調査・研究が進められた。「英語教育カリキュラム」については、特定の大学英語科目の中で実施された遠隔交流についての意識調査を行った。「英語教員養成」については、教職系クラスの中で遠隔交流を行い、スキルの修得、運用に関する項目も含めたアンケート調査を実施し、適正運用の明確化を行った。「現職教員の再教育」においては行政との連携を図りながら教育現場を結んで公開遠隔交流を実施し、教員のインタビュー調査を実施した。調査結果は、グローバル人材育成の観点から分析を行い、国内外の関連学会で発表し、論文としてまとめた。

４．研究成果

グローバル化の進展に伴い、国際化に対応できる人材の育成が急務となっている。本研究では、これまでのデジタル・コミュニケーション技術を活用した海外との遠隔交流の研究の実績に基づき、「英語」と「デジタル・コミュニケーション・スキル」というグローバル化における必須スキルが協働する遠隔交流を「英語教育カリキュラム」、「英語教員養成」、「現職教員の再教育」の各プログラムの中に体系的位置付ける方法論や効果的なあり方を追求した。

上記に関し海外の現地調査の成果を踏まえながら、現実的で革新的なアプローチを実施するために小学校と大学の英語関連クラスおよび英語教職系クラスに遠隔交流を融合した形で実践授業を行った。

英語系(語学・教職)授業における遠隔通信交流の効果に関するアンケート（抜粋）

項目 (強くそう思うとそう思うと回答した生徒の集計)	小学校外国語活動 小 2 年 (45) 交流 2 回 (2015-16)	大学英語教職系科目 3-4 年次 (50) 交流 16 回 (2013-16)	大学英語語学系科目 1-4 年 次 (165) 交流 16 回 (2013-16)
1)遠隔交流を体験できて有益であった。	97	98	99
2)遠隔交流を通して自文化・他文化や言語に興味関心を持つようになった。	95	95	97
3)遠隔交流を通して英語学習への意欲が高まった。	95	92	94

上記のアンケート結果(抜粋)からも明らかのように９割以上の小･大学生が項目 1, 2, 3 に関し肯定的な支持をしている。このプログラム実施を通し遠隔交流の有用性や自他文化および言語に対する興味関心の高まり、英語学習への意欲の向上などが確認できる。生徒の感想にはリアルタイムで直接顔を見ながらコミュニケーションを図ることができ相手をより身近に感じ興味・関心が高まる。発表することで自信がつき自分の英語が通じた喜びを感じる、自他文化の共通点や相違点が見え刺激を受けた、グローバル言語である英語の重要性を感じ英語力を伸ばしたいという意識の確立等が主に挙げられる。参加した現職教員や教育関係者の感想としては、普段みられない生徒の積極性が見られ異文化や英語に対する学習意欲の高まりを感じる、教室にいながらリアルタイムで異文化接

触を体感できるので効果的かつ本質的である、また自分自身でも企画・実施に挑戦してみたいなどの意見が得られ、現職教員の再教育も含めた生の情報の提供やグローバル時代に見合った革新的な教授法の事例を提言でき当初の目的を果たしたと言える。

2013 年から 2016 年にかけて英語教職系クラスおよび大学英語系科目に遠隔交流体験を有機的に関連付けて 16 回の遠隔交流実践授業を実施した。英語教員志望学生に行ったアンケート調査の結果を 8 つの観点に絞り以下のようにまとめた。

大学英語系クラス・英語教職系クラスを対象とした遠隔通信交流を融合した英語実践授業の効果に関するアンケート結果　(抜粋)

	8 観点（項目） (肯定的回答の集計)	教職系・語学系クラス 2013-2016 50 名+165 名
1	協同学習を通した学び合いと自律の場としての重要性	93.8 %
2	自他言語・文化への興味関心の高まり	94.8 %
3	グローバルな視野の拡大	96.3 %
4	現実的な場面設定を通した英語コミュニケーション能力、プレゼンテーションスキルの向上	99.8 %
5	英語教師（社会人）としての資質向上：英語力、英語指導技術、教材研究の改善	96 %
6	交流相手から得たメンター的なアドバイスの効果	98 %
7	動機づけ：意欲、使命感、責任感の拡大	94 %
8	自己の能力を省察する機会およびキャリア・教職のイメージ作りとしての重要性	93.5%

上記のアンケート結果から明らかのように、全項目とも９割以上の学生が肯定的な反応を示している。外国にいる交流相手とリアルタイムの英語コミュニケーション活動を体験して自己の英語力を再確認し、即興性や説得力のあるコミュニケーションスキルの重要性にも気づき、学習意欲が高まる。交流相手からの的確な反応・助言が得られ、英語、教職、専門分野等に関する知識や視野が広がる。海外の聴衆対象に現実的なプレゼンの場、教師としての力量を発揮する場が提供され、学生の実践力や指導力が大幅に向上する。お互いの発表に触れ、自他文化への興味関心が高まりグローバルな視野が拡大する。海外の交流相手を思い入念な教材研究や綿密な授業設計を試み、普段クラスメート同志の模擬授業では見られない使命感に満ちた姿勢が伺える。このようにグローバルで現実的な状況設定の基で英語コミュニケーション、プレゼンテーション、意見交換、模擬授業等を継続的に展開すると、学生の語学力、異文化理解力、発信力、発表力、実践的指導力が向上され、ひいては英語教員養成・人材育成の質的改善に寄与すると確信する。

まとめ

ICT 技術の恩恵を受けて可能となった遠隔交流は、グローバル時代にふさわしい開放性と柔軟性を兼ね備えた語学および国際感覚を育成する活動として効果的である。英語の授業や英語教員養成系授業に遠隔交流活動を融合させることで学生は身を持って言語、文化、コミュニケーションや発表スキルなどグローバル化社会に不可欠な要素を体感できる。

このような遠隔交流体験は学生がグローバル社会で活躍するための素地を形成することに貢献し、国際対話能力、自文化や国家を超える視野、および文科省が掲げるような地球的視野に立って行動するための教員の資質能力を育む出発点となるであろう。

英語教育の中にデジタル・コミュニケーション・スキルを融合させ、それを英語教育そのもの、およびそれを担う英語教員養成に体系的に組み込むことを目的とした本研究はグローバル化時代を生きぬく人材育成にとって緊急の課題に対応しながら、能動的な自己開発という持続的な側面を併せ持つといえよう。

本研究の成果は、長年にわたる遠隔交流に関する調査・研究実績を踏まえた上で、具体的かつ効果的な運用を目指し、グローバル化時代の要請に応えつつ、地域社会と連携協力した現職教員の再教育と英語教員養成プログラムの充実強化及びより優れた人材育成と英語教育に貢献できるものと考える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① YOGI, M.（與儀峰奈子）“Developing Language and Teaching Skills Through Videoconference and Collaborative Projects: A Case Study of English Teacher Training Programs in Japan.” International Journal of Arts & Sciences6(4), (査読有) 2013, 347-362.

② Ishikawa, R(石川隆士) and YOGI, M.(與儀峰奈子）“Innovative Assessment for Collaborative Learning: The Antithetical Rubrics.” 2017 International Conference on Education, Humanities and Social Sciences Studies(EHSSS-17), （査読無）March 2017, 48-50.

〔学会発表〕（計 7 件）

① Yogi, M. (與儀峰奈子) "Professional Development: English Teacher Training Through Videoconference Mentoring." TESOL International Convention, March 28, 2014, Portland Convention Center, OR, USA.

② Yogi, M. (與儀峰奈子) "Collaborating Across Borders: A Case Study of Videoconference-Enhanced Teacher Training Programs." World Congress of the International Association of Applied Linguistics (AILA), Aug. 11, 2014, Brisbane, Australia.

③ Yogi, M. (與儀峰奈子) "Facilitating Authentic Language and Cultural Learning Via Interactive Videoconferencing in Japan." Global Online/Distance Education Symposium, Feb. 27, 2016, Univ. of Riverside, CA, USA.

④ Yogi, M. (與儀峰奈子) "Interacting Across Boarders: Cultivating English Education Programs Through Videoconference Collaboration." 55th JACET International Convention. Sept 2, 2016, Hokusei Gakuen University, Sapporo, Hokkaido, Japan.

⑤ Yogi, M. (與儀峰奈子) "Authentic Language Learning via Videoconferencing." Nov. 28, 2016, JALT 2016, Aichi Industry & Labor Center – WINC, Nagoya, Aichi, Japan.

⑥ Yogi, M.(與儀峰奈子) "The Effects of Collaborative Videoconferencing in EFL College Course: A Case Study on Enhancing Global Minds." 2017 International Conference on Education Clute Institute, March 15, 2017, San Diego, CA, USA.

⑦ Yogi, M. (與儀峰奈子) "Strengthening 21st Century Skills Through Collaborative Videoconferencing." 6th International Conference on Education, Humanities and Social Sciences Studies, March 28th, 2017, Bencoolen, Singapore.

６．研究組織

(1)研究代表者

與儀 峰奈子（YOGI, Minako）
国立大学法人琉球大学・教育学部・教授
研究者番号：80284933

(2)研究分担者　(2014 年 10 月まで)

石川 隆士（ISHIKAWA, Ryuji）
国立大学法人琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：60315455